

# 子どもの習い事に対する親の価値観とペアレンティングスタイル — 子育て絵本の効果 —

藤後 悦子（東京未来大学こども心理学部）

井梅 由美子（東京未来大学こども心理学部）

大橋 恵（東京未来大学こども心理学部）

近年、子どもの習い事は盛んである。当初は楽しさを重視した習い事であっても、小学校高学年に入ると、より成果を求める方向に親の意識は変化しやすい。本報告では、はじめに子どもの習い事に対する親の価値観とペアレンティングスタイルについて、その実態を明らかにする。次に筆者らが作成した子育て絵本の活用が、子どもの習い事に対する親の価値観とペアレンティングスタイルに与える影響を検討した。

調査対象は、習い事を行っている小学校5年生、6年生の子どもを持つ200名の母親である。子どもの習い事の種類は、個人スポーツ系、集団スポーツ系、芸術系、学習系の4つのカテゴリーとした。子どもの習い事に対する母親の価値観やペアレンティングスタイルは、受容的な態度を意識しながらも、一方で「我慢させる」「何度も練習させる」などの意識が強かった。子育て絵本による介入後は、「継続・努力へのこだわり」「成果主義」「支配的関わり」が減少し、子育て絵本による介入は一定の効果が示された。最後に子育て支援としての絵本の活用の仕方や、絵本の効果の父母別分析、就労別分析の必要性などについて議論された。

キーワード：習い事，親子関係，子育て絵本，小学生

## 問題と目的

近年、子どもの習い事は盛んである。ベネッセ教育総合研究所の「第3回 学校外教育活動に関する調査」(2019)によると、小学生では平均64.6%がスポーツ、28.7%が芸術活動、49.1%が教室学習、60.1%が家庭学習を行っている（複数回答有）。末永（2013）の調査では、親が子どもにピアノを習わせる理由として「本人がやりたいといったから」「音楽の楽しさを知ってほしい」などが最も多かった。親は、子どもに習い事の楽しさや将来の選択の幅を広げることを目的として、習い事を開始させる。そしてその後、長期間に渡り、親は子どもの習い事に対して経済的にも時間的にも多くのサポートを提供するのである。

子どもの習い事は、親にも影響を与える。幼児期を対象とした谷・齊藤・宮武（2019）の調査によると、専業主婦の幸福感は、習い事を通じて子どもの成長を感じるほど高かった。特に子どもが小さい頃は、習い事による技術の習得も早いと、多くの時間を子どもと共有する専業主婦は、より子どもの習得や成長を目の当たりとすることであろう。大橋・井梅・藤後（2015）によるスポーツの習い事をしている子どもの親を対象とした研究では、母親の就労の有無による親の喜びの差は見られなかったものの、親

の喜びの内容で最も多かったものは、子どもの活躍であった。このように子どもの習い事は親にとって生きがいとなっているのである。

さて、小学校高学年になると、親の期待に子どもの成果がそぐわないことも生じてくる。先ほどの大橋他（2015）の調査では、スポーツ系の習い事を行っている親の悲しみには子どもの不出来が上位に挙がっていた。これはスポーツ系にとどまらず芸術系のコンクールや学習系の成果や試験の結果などでも同じことが予想される。すなわち、親の期待と子どもの成果の乖離が生じてくるのである。小学校高学年になると、子ども自身も他者との比較から、自身の技術や能力を客観視するようになり、成果が出ないことでの葛藤や出来ない自分の開示を避けるため、あえて挑戦や努力を放棄することもある。子どもの成果は親の自己評価と結びつきやすいため、親は自身の傷つきを守るためにも子どもの不甲斐ない出来に対して、子どもをコントロールして成果を求めることが起こりうる。しかしながら本来であれば、思春期の入り口ともいえる小学校高学年では、子どもと母親との適切な距離感が必要となる。特に子どもの成果が見られない時期こそ、見守りながらの精神的サポートが重要なのである。

以上は、親から見た視点であるが、習い事に対し

ての子ども自身は、どのように考えているのであろうか。バスケットボールの習い事をしている小中学生の子ども達約300名を対象に親に対して「やってほしいこと」「やってほしくないこと」を調査した結果、親に「やってほしいこと」は、精神的サポートが最も多かった(藤後・大橋・井梅, 2020)。「やってほしくないこと」としては、「過干渉・支配的」と「ネガティブな態度・言動」がほぼ同率でトップとなった。特に「過干渉・支配的」に関しては、小学校中学年では、5.9%と少ないが、小学校高学年では37.8%、中学生では44.4%と急激な増加が見られた。すなわち、小学校高学年以上になると、精神的なサポートは必要であるが、親には口は出してほしくないという心情があるのであろう。親は、子どもの習い事に対しても小学校高学年からペアレンティングスタイルを変更していく必要がある。しかしながら、この「過干渉・支配的」な関わりの修正はなかなか難しい。おおた(2019)は、「あなたのため」という大義名分のもとに、親が子どもに必要以上の負荷を与える状況を、「教育虐待」という言葉を用いて問題視している。おおたの著書「教育虐待」では、学習系習い事と言える中学受験について取り上げており、中学受験に前のめりになり、子どもの成果に過剰に反応して子どもに対して過度に支配的対応をとってしまう親への疑問を投げかけている。

さて、子どもの習い事に対する親のペアレンティングスタイルを規定する要因として、親のパーソナリティや経済的状況、人間関係など様々なものがあるが、その中でも認知的要因である「価値観」の影響は大きい。価値観と行動との関係を扱っている認知行動療法や論理療法では、価値観が人間の行動に影響を及ぼすと考える。同様に精神医学の分野で活用されている森田療法でも認知的要因としての「べき」思考、すなわち理想が高いほど、そうでない現実を受け入れることができず、そのギャップで苦しむという関係を精神交互作用として説明している。そして、「べき」に沿わない現状が気になればなるほど、それに対し注目してしまい、ネガティブな感情が高まり、また気になることに注目してしまう。これを繰り返すことで、視野狭窄に陥り、より子どもを支配するようになってしまうと指摘されている(北西, 2001)。子どもの習い事に対する「べき」思考とは、「成果を出すべき」「努力すべき」「絶対に続けるべき」「勝つべ

き」「毎日練習をすべき」「自分から計画を立てるべき」などが挙げられよう。この「べき」思考をいかに緩めて、柔軟に対応ができるかが、子育てでは大切になってくる。田中(2019)は、近年の親が成果を追求しすぎる傾向があることに警告を鳴らしており、子どもの存在そのものを肯定する姿勢が大切であると述べている。

親の「べき」思考を緩める方法として、子育て支援の現場では様々な試みが行われている。例えば、カナダのノーバディズパーフェクトは、「完璧な親はいない」と訳されており、グループワークなどによって「べき」思考に基づいた完全主義的な子育ての変容を求めている。その他にも他者と話す相談機能を利用することで、子育てへの柔軟な価値観や対応が可能となるよう全国に家庭支援センター、子育てサロンなどで子育て支援が展開されている。また親自身が教材を通して価値観を変えていくことができるよう様々な教材やワークシートなども開発されている。このように多様なアプローチがある中で、本報告では「絵本」という題材を取り上げていく。理由は、子育てにおける相談は援助要請が苦手な人にとっては難しいこと、ワークシートは一人で行うには手間がかかるが、子育て絵本は一人で気軽に読めて、かつ子どもの心情や自身の子育ての振り返りができるために有効ではないかと考えたからである。

そこで本報告では、はじめに子どもの習い事に対する親の価値観とペアレンティングスタイルについて、その実態を明らかにする。次に、子どもが習い事を行っている親に対して親の成果主義や支配的対応を弱めることをメッセージとした子育て絵本を活用して、子どもの習い事に対する親の意識や価値観に与える効果を検討することを目的とする。

## 方法

### 調査対象者

対象者は、小学校高学年の子どもが習い事を行っている母親200名(平均年齢43.16歳,  $SD=4.72$ )であった。子どもの年齢は、習い事の内容も高度になり、より努力や成果を求められるため、小学校高学年とした。子どもが複数いる場合は、最も習い事に力を入れている子どもを選択させ、その子どもが小学校高学年である者を対象とした。内訳は、小学5年生の男子56名

(28%)、小学5年生の女子54名(27%)、小学6年生の男子44名(22%)、小学6年生の女子46名(23%)であった。習い事の種類は個人スポーツ(水泳、テニス、武道など)、集団スポーツ(サッカー、野球、バスケットなど)、芸術系(ピアノ、バイオリンなど)、学習系(英会話、塾など)各50名としてオンライン会社による事前割付を行ったが、本調査では「子どもが最も力を入れている習い事」を自由に選択してもらったところ個人スポーツ50名、集団スポーツ50名、芸術系34名、学習系66名となった。

### 調査手続き

2020年3月に調査会社に委託しオンライン調査を実施した。2020年3月上旬に、当該会社の調査モニターとして登録している者の中から、本調査のテーマを説明し、同意を得た者に協力を依頼した。質問項目の途中で絵本を挿入し、その前後に以下の内容を尋ねた。

### 調査内容

#### デモグラフィック要因

子どもの学年、性別に加え、子どもの習い事の種類、習い事の相対的な技術レベルを尋ねた。習い事の種類は、個人スポーツ、集団スポーツ、芸術系、学習系の計26種目より、最も力を入れているものを一つ選択するように求めた。なお、個人スポーツとは個人の力量のみで勝敗が決まるものであり、集団スポーツとは集団で競技し、集団の力量で勝敗が決まるものとした。

#### 子どもの習い事に対する親の価値観

菊地(2001)のスポーツ信条に関する尺度を改変して用いた。本尺度は、「競技継続」、「競技中心の生活」、「勝利至上主義」、「成果への評価」、「指導者への評価」の5つの下位尺度計10項目から構成される。本尺度はスポーツ活動への信条を測定するものであるが、本調査実施に当たりスポーツのみではなく学習系や芸術系の内容にも当てはまるように置き換えた。例えば、「クラブ活動など、一度やり始めたら何があってもやり通すべきだ」を「習い事や受験勉強などは、一度やり始めたら何があってもやり通すべきだ」に変更、「コーチの意見には従わなくてはならない」を「コーチや習い事の先生、塾の先生などの意見に

は従わなくてはならない」、「競技生活は日常生活を犠牲にして成り立ってはいけない」を「競技やコンクール、受験などの生活は日常生活を犠牲にして成り立ってはいけない」などとした。これに対応して、下位尺度名も「習い事に対するこだわりの信念、継続」、「習い事中心の生活」、「勝利至上主義」、「成果への評価」、「指導者への評価」とした。各項目を「そう思わない」(1点)～「そう思う」(7点)の7件法で尋ねた。

#### 子どもの習い事に対するペアレンティングスタイル

支配的対応、チーム主義的対応、共感的対応の3因子から成るスポーツ・ペアレンティング尺度(藤後・大橋・井梅, 2017)の項目を学習系や芸術系の内容にも対応できるように置き換えた。例えば、「子どもには、毎回試合について反省させていた」は、「子どもには、毎回結果について反省させたい」、「子どもには、嫌なことがあってもレギュラーをとるためなら我慢した方がよいと伝えていた」は、「子どもには、嫌なことがあっても成果がでるためなら我慢した方がよいと伝えたい」などに変換した。なお本研究は、同一対象者に絵本黙読の前後に質問紙を実施するために、態度変容を測定することは難しいため、ペアレンティングスタイルへの意識について問うこととした。よって、質問項目の語尾は行動を尋ねる「～していた」ではなく「～したい」と表記した。3つの下位尺度から因子負荷量の高いものを中心に支配的対応4項目、チーム主義的対応3項目、共感的対応3項目の全10項目を用いた。全くあてはまらない(1点)～非常にあてはまる(6点)の6件法で尋ねた。

その他、パーソナリティに関する尺度も尋ねたが、本研究では使用しないため取り上げないこととした。

#### 使用した子育て絵本

「けんちゃんとサッカーボール」(藤後・YOSSAN, 2020)を使用した。絵本には、主人公男児がサッカーの習い事が楽しくてしかたがない幼児期から小学校高学年になるまでの成長が描かれている。心理学的なテーマと流れは、Table1(藤後・井梅・大橋, 2021)の通りである。子どもの学年が上がるにつれて、成果が出ないなどの葛藤にぶつかる際の心情や親の対応について描いた所に特徴があり、子どもの心理的变化に気づき親自身も対応を変えることで、最後は再びサッカーが好きになるという内容である。成果

主義ではなく、子どもの存在そのものを承認し、受容する大切さや、子ども自身の「楽しい」「好きだ」という気持ちを尊重する関わり方は、スポーツだけではなく他の習い事にも当てはまるため本書を使用した。絵本は、表紙1枚（Figure1）、中表紙1枚、本文見開き11枚、裏表紙1枚で構成されている。



Figure 1  
使用した絵本

## 調査の流れ

はじめに、プレテストとして、デモグラフィック要因と子どもの習い事に対する親の価値観とペアレンティングスタイルについての回答を求めた。その後「けんちゃんとサッカーボール」を黙読してもらい、ポストテストとして子どもの習い事に対する親の価値観とペアレンティングスタイルに関して再度回答を求めた。

## 倫理的配慮

研究の参加は自由意思であること、匿名性が確保されていること、学術的利用のみを行うことを伝え、同意を得た。

Table 1 絵本のストーリーとテーマ（藤後・井梅・大橋，2021）

| テーマ                | 場面                      | 絵本の文章例  | ストーリー  |
|--------------------|-------------------------|---|--|
| 1 受容的な空間           | 公園に親子でピクニック             | 「広い原っぱ、ぐんぐん走る、気持ちいい。（略）いつもニコニコ手を振ってくれるんだ！お父さん、ニコニコ、ぼくもニコニコ」             | 虫取りや外遊びが大好きだったけんちゃんは、小さい頃いつも犬のマルと両親とともに遊びに出かける。そこではいつも両親がにこやかにけんちゃんを見守る受容的な雰囲気がある。 |
| 2 健康な子どもらしい生活      | マルと一緒に遊び、一緒にご飯を食べ、一緒に寝る | 「ぼくとマルは、毎日ボールで遊んだよ。投げたり、けったり、ついたり」                                      | ある日父親から誕生日プレゼントとしてけんちゃんはサッカーボールをもらう。遊びの延長としてけんちゃんがマルとサッカーで戯れる。                     |
| 3 自発的活動            | 父親に憧れて、マルと一緒に練習場面       | 「お父さんみたいになりたいくて、マルと一緒にこっそり練習。毎日ないしょの特訓だ！」                               | そこで父親がサッカーの技を披露する。父親のようになりたいくて、けんちゃんとマルは密かに練習に励み、サッカーが上達する。                        |
| 4 競技へのあこがれ         | 小学校チームへの見学              | 「ぼくたちは、秘密の特訓をもっともっと頑張った。だって、お父さんとお母さんをびっくりさせたいもん」 「～略 ぼくも皆みたいに上手になれるかな」 | 父親に上達したサッカーを披露する。父親も喜ぶ。次の段階として小学校のサッカーチームを見学し父親は連れていく。                             |
| 5 競技スポーツへの移行       | チームへの参加                 | 「ぼくはチームに入ることに決めた」 「～略 コーチ達も『すごい子が入ってきた！これから楽しみだ！』と大喜びで話している」            | その後、小学校のサッカーチームに入部する。  |
| 6 活躍と達成感           | 試合場面                    | みんなで勝てたんだ！～略～ぼく将来は、プロのサッカー選手になりたいな。                                     | 最初は元気よくプレーして活躍するけんちゃん。   |
| 7 失敗と委縮            | コーチや親からの叱責              | コーチもパパも怖い顔。仲間も応援席も怖い顔。コーチからは、「けん。やる気がないのか。負けてもいいのか！」と叱られるんだ。            | だが、高学年になると、周囲から成果ばかり求められるようになり、うまく行かなくなり、みんなの前で怒られることが多くなる。                        |
| 8 劣等感と孤立           | 一人で悩んでいる場面              | 「失敗したらどうしようと考えてると、どんどん怖くなっちゃう。～略～本当はもう、サッカーしたくない」                       | サッカーのことを考えれば考えるほど、恐怖が襲ってきて、委縮してしまい、けんちゃんは孤立感を覚える。                                  |
| 9 甘えや休みの時期         | 試合を休んでマルと探検             | 「なんだかワクワクしてきた。懐かしいな。この気持ち。～ぼくの気持ちもふわっと広がった」                             | ある日苦しさから逃れるために、自身で決心して試合を休み、過去の受容的で自由な雰囲気保証されている公園の探索遊びに出かける。                      |
| 10 Beingとあなたらしさの受容 | 探検からの帰宅と温かく受け入れる両親      | 「お父さんも小さい頃、内緒で旅に出たこと思い出したよ。親子だな」 だって                                    | 自宅に戻るとき、怖くて緊張するが、父母はけんちゃんを温かく迎え入れてくれ、けんちゃんの話をつゆくりと傾聴してくれる。                         |
| 11 自立と再出発          | 練習に自分から行くことと決心して自宅を出発   | 「ぼく、やっぱりサッカー好きなんだ。お父さん、お母さん、マル、行ってくるね！」                                 | サッカーの楽しさを再認識し、自ら次の週から練習に出かける。  |

## 結果

### 対象者の属性

個人スポーツの習い事は、水泳27名、武道8名、テニス6名、卓球・陸上各2名、バレエ4名、バドミントン1名であった。集団スポーツの習い事は、サッカー22名、ダンス10名、野球・バスケットボール各7名、バレーボール・ラグビー各2名であった。芸術系の習い事は、ピアノ27名、吹奏楽4名、太鼓2名、バイオリン1名であった。学習系の習い事は、英会話19名、塾16名、そろばん8名、公文7名、習字16名であった。なお、バレエおよびダンスの分類については、代表的なコンクールのエントリー条件を確認したところ、ダンスはチームでのエントリー、バレエは個人でのエントリーが条件となっているところが多いため、バレエを個人競技、ダンスを集団スポーツと分類した。

習い事別の男女および技術レベル別の内訳はTable2の通りである。全体として性別比には差がないが、子どもの習い事間の人数の偏りが示され ( $\chi^2$

(3)=10.24,  $p<.05$ )、学習系が芸術系より人数が多かった。

次に、子どもの習い事に対する親の価値観とペアレンティングスタイルの実態を把握するために、プレテストで実施した尺度の各項目の度数分布をTable3とTable4にまとめた。習い事に対するこだわりの信念、継続、習い事中心の生活、勝利至上主義、成果への評価、指導者への評価を中心とした回答の傾向を確認した。「少しそう思う」から「そう思う」の合計を算出した結果、上位3つは「コーチや習い事の先生、塾の先生の意見には従わなくてはならない」が84件(42.0%)、「勝つためや合格するためには、それを中心とした生活をすべきだ」72件(36.0%)、「習い事や受験勉強などは、一度やり始めたら何があってもやり通すべきだ」62件(31.0%)となった。なお5つの逆転項目については、項目内容で「そう思う」と回答したものは「そう思わない」というように回答は反対の方向で処理した。

Table 2 対象者の内訳

| 技術レベル | 子性別 | 習い事種類    |        |        |        | 合計     |         |
|-------|-----|----------|--------|--------|--------|--------|---------|
|       |     | 個人スポーツ   | 集団スポーツ | 芸術系    | 学習系    |        |         |
| 下     | 男性  | 度数       | 1      | 3      | 0      | 3      | 7       |
|       |     | 習い事の種類の数 | (14.3) | (42.9) | (0.0)  | (42.9) | (100.0) |
|       | 女性  | 度数       | 3      | 1      | 2      | 2      | 8       |
|       |     | 習い事の種類の数 | (37.5) | (12.5) | (25.0) | (25.0) | (100.0) |
|       | 合計  | 度数       | 4      | 4      | 2      | 5      | 15      |
|       |     | 習い事の種類の数 | (26.7) | (26.7) | (13.3) | (33.3) | (100.0) |
| 中     | 男性  | 度数       | 15     | 15     | 14     | 22     | 66      |
|       |     | 習い事の種類の数 | (22.7) | (22.7) | (21.2) | (33.3) | (100.0) |
|       | 女性  | 度数       | 14     | 17     | 14     | 20     | 65      |
|       |     | 習い事の種類の数 | (21.5) | (26.2) | (21.5) | (30.8) | (100.0) |
|       | 合計  | 度数       | 29     | 32     | 28     | 42     | 131     |
|       |     | 習い事の種類の数 | (22.1) | (24.4) | (21.4) | (32.1) | (100.0) |
| 上     | 男性  | 度数       | 9      | 7      | 3      | 8      | 27      |
|       |     | 習い事の種類の数 | (33.3) | (25.9) | (11.1) | (29.6) | (100.0) |
|       | 女性  | 度数       | 8      | 7      | 1      | 11     | 27      |
|       |     | 習い事の種類の数 | (29.6) | (25.9) | (3.7)  | (40.7) | (100.0) |
|       | 合計  | 度数       | 17     | 14     | 4      | 19     | 54      |
|       |     | 習い事の種類の数 | (31.5) | (25.9) | (7.4)  | (35.2) | (100.0) |
| 合計    | 男性  | 度数       | 25     | 25     | 17     | 33     | 100     |
|       |     | 習い事の種類の数 | (25.0) | (25.0) | (17.0) | (33.0) | (100.0) |
|       | 女性  | 度数       | 25     | 25     | 17     | 33     | 100     |
|       |     | 習い事の種類の数 | (25.0) | (25.0) | (17.0) | (33.0) | (100.0) |
|       | 合計  | 度数       | 50     | 50     | 34     | 66     | 200     |
|       |     | 習い事の種類の数 | (25.0) | (25.0) | (17.0) | (33.0) | (100.0) |

Table 3 子どもの習い事に対する親の価値観の各項目の度数分布表

|   |     | そう<br>思わない | あまり<br>そう思<br>わない | やや<br>そう思<br>わない | どちら<br>とも<br>いえ<br>ない | 少し<br>そう<br>思う | やや<br>そう<br>思う | そう<br>思う | 「少し<br>そう<br>思う」<br>～「そう<br>思う」 |
|---|-----|------------|-------------------|------------------|-----------------------|----------------|----------------|----------|---------------------------------|
| <b>【継続】</b>                                 |     |            |                   |                  |                       |                |                |          |                                 |
| 習い事や受験勉強などは、一度やり始めたら何があってもやり通すべきだ。          | 件   | 9          | 20                | 40               | 69                    | 26             | 23             | 13       | 62                              |
|   | (%) | (4.5)      | (10.0)            | (20.0)           | (34.5)                | (13.0)         | (11.5)         | (6.5)    | (31.0)                          |
| 離脱することは、逃げだとは思わない。(逆)                       | 件   | 17         | 27                | 44               | 79                    | 16             | 12             | 5        | 33                              |
|   | (%) | (8.5)      | (13.5)            | (22.0)           | (39.5)                | (8.0)          | (6.0)          | (2.5)    | (16.5)                          |
| <b>【習い事中心の生活】</b>                           |     |            |                   |                  |                       |                |                |          |                                 |
| 勝つためや合格するためには、それを（競技/コンクール/勉強）中心とした生活にすべきだ。 | 件   | 10         | 32                | 30               | 56                    | 52             | 12             | 8        | 72                              |
|   | (%) | (5.0)      | (16.0)            | (15.0)           | (28.0)                | (26.0)         | (6.0)          | (4.0)    | (36.0)                          |
| 競技やコンクール、受験などの生活は日常生活を犠牲にして成り立ってはいけない。(逆)   | 件   | 14         | 18                | 49               | 65                    | 33             | 18             | 3        | 54                              |
|   | (%) | (7.0)      | (9.0)             | (24.5)           | (32.5)                | (16.5)         | (9.0)          | (1.5)    | (27.0)                          |
| <b>【勝利至上主義】</b>                             |     |            |                   |                  |                       |                |                |          |                                 |
| 競技やコンクールや受験では勝利追求以外大きな価値はない。                | 件   | 20         | 55                | 43               | 53                    | 18             | 7              | 4        | 29                              |
|   | (%) | (10.0)     | (27.5)            | (21.5)           | (26.5)                | (9.0)          | (3.5)          | (2.0)    | (14.5)                          |
| 何を犠牲にしても勝つことが大事だというのはおかしい。(逆)               | 件   | 23         | 26                | 48               | 59                    | 19             | 19             | 6        | 44                              |
|   | (%) | (11.5)     | (13.0)            | (24.0)           | (29.5)                | (9.5)          | (9.5)          | (3.0)    | (22.0)                          |
| <b>【成果への評価】</b>                             |     |            |                   |                  |                       |                |                |          |                                 |
| 失敗や負けたりするのは努力が足りないからだ。                      | 件   | 18         | 35                | 32               | 68                    | 34             | 9              | 4        | 47                              |
|   | (%) | (9.0)      | (17.5)            | (16.0)           | (34.0)                | (17.0)         | (4.5)          | (2.0)    | (23.5)                          |
| 結果よりも過程が大切だ。(逆)                             | 件   | 23         | 26                | 53               | 52                    | 29             | 13             | 4        | 46                              |
|   | (%) | (11.5)     | (13.0)            | (26.5)           | (26.0)                | (14.5)         | (6.5)          | (2.0)    | (23.0)                          |
| <b>【指導者への評価】</b>                            |     |            |                   |                  |                       |                |                |          |                                 |
| コーチや習い事の先生、塾の先生などの意見には従わなくてはならない。           | 件   | 4          | 20                | 29               | 63                    | 50             | 25             | 9        | 84                              |
|   | (%) | (2.0)      | (10.0)            | (14.5)           | (31.5)                | (25.0)         | (12.5)         | (4.5)    | (42.0)                          |
| 自分の考えや意見はコーチや習い事の先生、塾の先生などに対しても主張すべきだ。(逆)   | 件   | 7          | 15                | 51               | 70                    | 33             | 21             | 3        | 57                              |
|   | (%) | (3.5)      | (7.5)             | (25.5)           | (35.0)                | (16.5)         | (10.5)         | (1.5)    | (28.5)                          |

習い事に対するペアレンティングスタイルの各項目の度数分布をまとめたものがTable 4である。各項目について「少しあてはまる」から「非常によくあてはまる」の合計の上位3つはチーム主義的対応の「子どもには目的をもって取り組むように伝えたい」、共感的対応の「子どもが失敗して落ち込んでいたら、じっくりと話を聞いてあげたい」「子どもが落ち込んでいたら、そばにいるようにしてあげたい」であった。

ハラスメントにつながるような支配的な対応に関連する項目では、「子どもには、上手にできていなかったら、できるまで何度も練習させたい」164件（82%）、

「子どもには、嫌なことがあっても成果がでるためなら我慢した方がよいと伝えたい」138件（69%）などが挙げられた。また制限付きの対応としての「子どもが失敗した時は、上手になるまで、遊ぶ時間やお小遣いを制限したい」は59件（29.5%）にのぼった。

Table 4 習い事に対するペアレンティングスタイルに関する各項目の度数分布表

|                                       | 全く<br>あてはま<br>らない | あてはま<br>らない  | あまり<br>あてはま<br>らない | 少し<br>あてはまる  | あてはまる        | 非常に<br>よくあて<br>はまる | 「少しあては<br>まる」～「非<br>常によくあて<br>はまる」 |               |
|---------------------------------------|-------------------|--------------|--------------------|--------------|--------------|--------------------|------------------------------------|---------------|
| <b>【支配的対応】</b>                        |                   |              |                    |              |              |                    |                                    |               |
| 子どもが失敗した時は、上手になるまで、遊ぶ時間やお小遣いを制限したい。   | 件<br>(%)          | 29<br>(14.5) | 47<br>(23.5)       | 65<br>(32.5) | 38<br>(19.0) | 15<br>(7.5)        | 6<br>(3.0)                         | 59<br>(29.5)  |
| 子どもには、上手にできていなかったら、できるまで何度も練習させたい。    | 件<br>(%)          | 6<br>(3.0)   | 5<br>(2.5)         | 25<br>(12.5) | 84<br>(42.0) | 62<br>(31.0)       | 18<br>(9.0)                        | 164<br>(82.0) |
| 子どもには、嫌なことがあっても成果がでるためなら我慢した方が良く伝えたい。 | 件<br>(%)          | 5<br>(2.5)   | 11<br>(5.5)        | 46<br>(23.0) | 90<br>(45.0) | 42<br>(21.0)       | 6<br>(3.0)                         | 138<br>(69.0) |
| 子どもには、毎回結果について反省させたい。                 | 件<br>(%)          | 8<br>(4.0)   | 14<br>(7.0)        | 64<br>(32.0) | 74<br>(37.0) | 33<br>(16.5)       | 7<br>(3.5)                         | 114<br>(57.0) |
| <b>【チーム主義的対応】</b>                     |                   |              |                    |              |              |                    |                                    |               |
| 子どもにはみんなのために、何ができるのかを考えるように伝えたい。      | 件<br>(%)          | 3<br>(1.5)   | 3<br>(1.5)         | 20<br>(10.0) | 75<br>(37.5) | 77<br>(38.5)       | 22<br>(11.0)                       | 174<br>(87.0) |
| 子どもには、失敗したり緊張している子がいたら励ますように伝えたい。     | 件<br>(%)          | 2<br>(1.0)   | 1<br>(0.5)         | 15<br>(7.5)  | 71<br>(35.5) | 85<br>(42.5)       | 26<br>(13.0)                       | 182<br>(91.0) |
| 子どもには目的をもって取り組むように伝えたい。               | 件<br>(%)          | 2<br>(1.0)   | 0<br>(0.0)         | 8<br>(4.0)   | 50<br>(25.0) | 100<br>(50.0)      | 40<br>(20.0)                       | 190<br>(95.0) |
| <b>【共感的対応】</b>                        |                   |              |                    |              |              |                    |                                    |               |
| 子どもが失敗して落ち込んでいたら、じっくりと話を聞いてあげたい。      | 件<br>(%)          | 2<br>(1.0)   | 1<br>(0.5)         | 10<br>(5.0)  | 48<br>(24.0) | 86<br>(43.0)       | 53<br>(26.5)                       | 187<br>(93.5) |
| 子どもが落ち込んでいたら、そばにいるようにしてあげたい。          | 件<br>(%)          | 1<br>(0.5)   | 1<br>(0.5)         | 11<br>(5.5)  | 49<br>(24.5) | 91<br>(45.5)       | 47<br>(23.5)                       | 187<br>(93.5) |
| 子どもには、つらかったらやめてもいいよと伝えたい。             | 件<br>(%)          | 3<br>(1.5)   | 10<br>(5.0)        | 48<br>(24.0) | 67<br>(33.5) | 53<br>(26.5)       | 19<br>(9.5)                        | 139<br>(69.5) |

## 尺度構成

子どもの習い事に対する親の価値観とペアレンティングスタイル尺度の構造を確認するために、プレテストで得られた各尺度の得点に対して因子分析を行った。初めに子どもの習い事に対する親の価値観尺度10項目に対して因子分析（最尤法，プロマックス回転）を行ったところ、共通性が0.20未満の項目が2つあったためこれらを除外して再度因子分析を行った。固有値の減衰状況（2.54, 1.82, 0.88……）および解釈可能性から2因子が妥当と判断した（累積寄与率54.49%）。因子間相関を確認すると、.07であり相関がほぼ示されなかったため、再度、主因子法バリマックス回転を実施し、その結果をTable 5に示した。第1因子は、「継続・努力へのこだわり」、第2因子は「成

果主義」と命名した。なお、絵本黙読後の尺度構造も確認したところ、同じ構造が確認できた。

次に、子どもの習い事に対するペアレンティングスタイル尺度項目に対して因子分析（最尤法，プロマックス回転）を行った結果、共通性が0.20未満の項目が2つあったためこれらを除外して再度行った。固有値の減衰状況（3.23, 2.09, 0.76……）および解釈可能性から2因子が妥当と考えられた（累積寄与率は59.18%）。因子間相関は、.20であり、結果をTable 6にまとめた。第1因子を「寄り添い」、第2因子を「支配的関わり」と命名した。なお絵本黙読後に実施した本尺度の構造も確認したところ、同じ構造が確認できた。それぞれについて、関連がある項目の平均値を下位尺度得点とした。

Table 5 子どもの習い事に対する親の価値観（主因子法 バリマックス回転）

|   | プレテスト |      | ポストテスト |      |
|---|-------|------|--------|------|
|   | I     | II   | I      | II   |
| <b>継続・努力へのこだわり（プレテスト<math>\alpha</math>=.75, ポストテスト<math>\alpha</math>=.79）</b> |       |      |        |      |
| 習い事や受験勉強などは、一度やり始めたら何があってもやり通すべきだ。  | .78   | -.02 | .75    | -.04 |
| 離脱することは、逃げだとは思わない。（逆）   | .70   | .27  | .72    | .11  |
| 失敗や負けたりするのは努力が足りないからだ。  | .56   | -.04 | .65    | .14  |
| 勝つためや合格するためには、それを（競技/コンクール/勉強）中心とした生活にすべきだ。                                     | .54   | -.01 | .56    | .21  |
| コーチや習い事の先生、塾の先生等の意見には従わなくてはならない。  | .52   | .32  | .58    | -.05 |
| <b>成果主義（プレテスト<math>\alpha</math>=.60, ポストテスト<math>\alpha</math>=.64）</b>        |       |      |        |      |
| 何を犠牲にしても勝つことが大事だというのはおかしい。（逆）   | -.01  | .76  | .05    | .90  |
| 競技やコンクール、受験等の生活は日常生活を犠牲にして成り立ってはいけない。（逆）  | -.11  | .53  | .22    | .60  |
| 結果よりも過程が大切だ。（逆）   | .03   | .46  | -.02   | .40  |

Table 6 子どもの習い事に対するペアレンティング尺度の因子分析（最尤法、プロマックス回転）

|  | プレテスト |      | ポストテスト |      |
|--|-------|------|--------|------|
|  | I     | II   | I      | II   |
| <b>寄り添い（プレテスト<math>\alpha</math>=.80, ポストテスト<math>\alpha</math>=.88）</b>   |       |      |        |      |
| 子どもが落ち込んでいたら、そばにるようにしてあげたい。  | .80   | -.19 | .86    | -.12 |
| 子どもが失敗して落ち込んでいたら、じっくりと話を聞いてあげたい。   | .77   | -.17 | .78    | -.17 |
| 子どもには、失敗したり緊張している子がいたら励ますように伝えたい。  | .64   | .12  | .78    | .07  |
| 子どもには目的をもって取り組むように伝えたい。  | .58   | .14  | .74    | .16  |
| 子どもにはみんなのために、何ができるのかを考えるように伝えたい。   | .56   | .14  | .71    | .20  |
| <b>支配的関わり（プレテスト<math>\alpha</math>=.77, ポストテスト<math>\alpha</math>=.73）</b> |       |      |        |      |
| 子どもには、毎回結果について反省させたい。  | .02   | .78  | -.01   | .77  |
| 子どもが失敗した時は、上手になるまで、遊ぶ時間やお小遣いを制限したい。  | -.24  | .68  | -.33   | .63  |
| 子どもには、上手にできていなかったら、できるまで何度も練習させたい。   | .34   | .57  | .18    | .64  |
| 子どもには、嫌なことがあっても成果がでるためなら我慢した方が良いと伝えたい。                                     | .05   | .56  | .17    | .55  |
| 因子間相関  | II    |      | .08    |      |

### 子育て絵本の効果

子育て絵本の効果を検討するために、子どもの習い事に対する親の価値観尺度とペアレンティングスタイル尺度の各下位尺度の得点を従属変数とし、習い事の種類（参加者間4水準）、測定時期（参加者内2水準）を独立変数とした二要因分散分析を実施した。その結果、Table7に示した通り、習い事に対する親の価値観では、「継続・努力へのこだわり」において、有意な交互作用効果が示された( $F(3,196)=2.94, p=.03$ )。単純主効果検定の結果、個人スポーツ

( $F(1,196)=6.71, p=.01$ )と学習系( $F(1,196)=11.15, p<.001$ )において、子育て絵本黙読後に「継続・努力へのこだわり」が有意に減少した。習い事の種類による主効果は示されなかったが、時期の主効果は示され( $F(1,196)=9.93, p<.01$ )、絵本黙読後「継続・努力へのこだわり」は有意に得点が減少した( $p<.01$ )。また、「成果主義」は、交互作用と習い事の種類的主効果は示されなかったが、時期の主効果は示された( $F(1,196)=12.81, p<.001$ )。「成果主義」は子育て絵本黙読後に得点が下がった( $p<.001$ )。

Table 7 子どもの習い事に対する親の価値観への効果 (参加者間×参加者内)

|             |     |               | 個人<br>スポーツ系<br>(n=50) | 集団<br>スポーツ系<br>(n=50) | 芸術系<br>(n=34) | 学習系<br>(n=66) | 合計<br>(n=200) | 習い事<br>の種類 | 介入<br>前後 | 交互<br>作用 |
|-------------|-----|---------------|-----------------------|-----------------------|---------------|---------------|---------------|------------|----------|----------|
| 継続・努力へのこだわり | プレ  | <i>M</i>      | 3.88                  | 3.61                  | 3.88          | 3.96          | 3.84          | 0.20       | 9.33 **  | 2.94 *   |
|             |     | ( <i>SD</i> ) | (1.07)                | (1.04)                | (1.04)        | (0.88)        | (1.00)        |            |          |          |
| 成果主義        | プレ  | <i>M</i>      | 3.67                  | 3.73                  | 3.39          | 3.50          | 3.58          | 0.78       | 12.81 ** | 0.61     |
|             |     | ( <i>SD</i> ) | (0.99)                | (1.17)                | (1.05)        | (1.08)        | (1.08)        |            |          |          |
|             | ポスト | <i>M</i>      | 3.56                  | 3.71                  | 3.69          | 3.59          | 3.63          |            |          |          |
|             |     | ( <i>SD</i> ) | (1.07)                | (1.17)                | (0.99)        | (0.85)        | (1.01)        |            |          |          |
|             | ポスト | <i>M</i>      | 3.33                  | 3.49                  | 3.19          | 3.38          | 3.36          |            |          |          |
|             |     | ( <i>SD</i> ) | (1.17)                | (1.06)                | (1.04)        | (1.02)        | (1.07)        |            |          |          |

\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ 

Table 8 子どもの習い事に対するペアレンティングスタイルへの効果 (参加者間×参加者内)

|        |     |               | 個人<br>スポーツ系<br>(n=50) | 集団<br>スポーツ系<br>(n=50) | 芸術系<br>(n=34) | 学習系<br>(n=66) | 合計<br>(n=200) | 習い事<br>の種類 | 介入<br>前後 | 交互<br>作用 |
|--------|-----|---------------|-----------------------|-----------------------|---------------|---------------|---------------|------------|----------|----------|
| 寄り添い   | プレ  | <i>M</i>      | 4.70                  | 4.77                  | 4.57          | 4.74          | 4.71          | 0.23       | 0.07     | 1.73     |
|        |     | ( <i>SD</i> ) | (0.63)                | (0.63)                | (0.92)        | (0.63)        | (0.68)        |            |          |          |
|        | ポスト | <i>M</i>      | 4.65                  | 4.62                  | 4.71          | 4.76          | 4.69          |            |          |          |
|        |     | ( <i>SD</i> ) | (0.79)                | (0.87)                | (0.90)        | (0.67)        | (0.79)        |            |          |          |
| 支配的関わり | プレ  | <i>M</i>      | 3.70                  | 3.79                  | 3.35          | 3.70          | 3.66          | 2.05       | 27.59 ** | 1.33     |
|        |     | ( <i>SD</i> ) | (0.86)                | (0.74)                | (0.89)        | (0.81)        | (0.83)        |            |          |          |
|        | ポスト | <i>M</i>      | 3.37                  | 3.48                  | 3.18          | 3.56          | 3.43          |            |          |          |
|        |     | ( <i>SD</i> ) | (0.78)                | (0.83)                | (0.90)        | (0.83)        | (0.83)        |            |          |          |

\*\*  $p < .01$ 

子どもの習い事に関するペアレンティングスタイルへの効果は、「寄り添い」では、交互作用効果、主効果共に示されなかった。「支配的関わり」は、交互作用効果および子どもの習い事の種類的主効果は示されなかったが、時期の主効果は示され ( $F(1,196)=27.59, p<.001$ )、Table8に示す通り「支配的関わり」は、子育て絵本黙読後に得点が下がっていた ( $p<.001$ )。

### 考 察

本研究では、近年盛んになっている子どもへの習い事に対する親の価値観とペアレンティングスタイル

を取り上げ、その実態を明らかにした。続いて、親の支配的対応や成果主義的意識を弱めることを目的として、筆者らは、サッカーの習い事を題材として作成した子育て絵本をスポーツ、芸術、学習系の習い事をする親に読ませ、その効果を検証した。

### 子どもの習い事に対する親の価値観やペアレンティングスタイルの実態

はじめに、子どもの習い事に対する親の価値観についてだが、小学校高学年の親のおよそ三分の一は、「コーチや習い事の先生、塾の先生の意見には従わなくてはならない」、「勝つためや合格するためには、それを中心とした生活をすべきだ」、「習い事や受験

勉強などは、一度やり始めたら何があってもやり通すべきだ」と考えていることが明らかになった。

そして子どもへの接し方としては、支配的対応にあたる「子どもには、上手にできていなかったら、できるまで何度も練習させたい」に約8割の親が同意し、「子どもには、嫌なことがあっても成果がでるためなら我慢した方がよいと伝えたい」と約7割の親が同意した。また制限付きの対応としての「子どもが失敗した時は、上手になるまで、遊ぶ時間やお小遣いを制限したい」には約30%の親が賛同していた。この結果は、田中(2019)が指摘しているように「成果」を重視した関わりであると言えるのではないだろうか。行き過ぎた支配性が教育的虐待につながる可能性があることを心に留める必要がある。

一方で、子どもが習い事でうまく行かない際には、約9割の親が「子どもが失敗して落ち込んでいたら、じっくりと話を聞いてあげたい」「子どもが落ち込んでいたら、そばにいてるようにしてあげたい」と思っていた。親はあくまでも「子ども達のために」一生懸命振舞おうとしている様相が示された。ただし、子どものために、「傍にいて」「じっくりと話を聞いて」あげながらも、「我慢させた方がよい」や「何度も練習させたい」と思っているのであれば、これらはダブルバインドとして子どもに伝わる可能性が高い。ダブルバインドは、子ども達の問題行動を引き起こすとも指摘されている(こどもラボ・ナビ, 2020)ため、ダブルバインドには留意しながら、子どもの存在そのものを認めてあげるような対応が必要となろう。

### 子育て絵本を用いた介入効果

子育て絵本黙読前後に、子どもの習い事に対する意識やペアレンティングスタイルがどのように変容するかを検討した。その結果、個人スポーツ系と学習系においては「継続・努力へのこだわり」が減少し、「成果主義」と「支配的関わり」は黙読前後の全体の平均値が減少した。個人スポーツは集団スポーツと比較して、チーム状況の影響が少なく、子どもの実力や技術がそのまま成果に結びつきやすい。また受験などの学習系のものも、やはり合格という目標が明確であり成果も自明である。ゆえに親自身、継続や努力へのこだわりが強かったが、子育て絵本を通して自身の子育てへの気づきを促されたといえよう。

内田(2018)は、親の子どもへの期待としては、自

分の思い通りに子どもをコントロールする「操作的期待」があるが、思春期になると、子どもは親の期待を無視したり反発したりする中で、行き詰まり、最終的には操作的期待を諦めることの重要性を述べている。この点からも、子育て絵本を通して支配的対応や成果へのこだわりが減ったことは、意義がある。子どもの習い事に対する親の価値観としては、正解はないものの藤後・井梅・大橋(2019)も述べている通り、最終的には子どものWell-Beingを目指すことを意識したいものである。「習い事に求められているものは、特別な知識と技術を得ることではなく、体力や集中力など生活の中で役に立つ力を身につけること、また指導者や友人などと豊かな人間関係を育てることである」(末永, 2013)ことを忘れてはならないであろう。

本絵本を通して親の支配的、成果主義的意識の変容が期待でき、スポーツを取り上げた題材にも関わらず、スポーツ以外の、芸術系や学習系の習い事の親教育にも有効であることが確認できたことは評価できるのではないかと。

### 今後の課題

本報告では、子どもの習い事を4カテゴリーに分けて調査を行い、親の価値観や子どもへの接し方などを検討したが、特に学習系の習い事に関しては、子どもの受験が絡み、受験期が近づく親の意識や対応は短期間で変容するであろう。学習系も含めるのであれば、より詳細な検討が必要であると考えられる。また絵本の内容もサッカーというスポーツを題材としたものであった。保護者には、この絵本からスポーツ系以外の習い事に関して、自身の意識や対応について般化してもらったが、もし絵本の内容が学習や芸術系であれば、異なる結果になるかもしれない。また谷他(2019)の研究のように、専業主婦と有職主婦との比較、そして佐々木(2009)のように子どもの習い事における父親の意義に焦点を当てた研究などを踏まえ、父親と母親の比較なども検討の余地がある。

また本研究は、絵本黙読前後の短期的な効果を検討したに過ぎないことも述べておく必要がある。最終的には、意識の変容が実際の子育てや子どもへの対応にどの程度般化したかを検証する必要がある。今後は絵本の種類の増加、また実際の子育て現場での絵本の活用について積極的に活用していきたい。

## 引用文献

- ベネッセ教育総合研究所(2019). 第3回 学校外教育活動に関する調査 [https://berd.benesse.jp/up\\_images/research/2017\\_Gakko\\_gai\\_tyosa\\_web.pdf](https://berd.benesse.jp/up_images/research/2017_Gakko_gai_tyosa_web.pdf) (2020年8月25日取得)
- 菊地 直子(2001). 人格の適応的変容とスポーツ信条:スポーツからの離脱に着目して 仙台大学紀要, 32(2), 27-39.
- 北西 憲二(2001). 親子療法引きこもりを救う 健康ライブラリー 講談社
- こどもラボ・ナビ(2020). 子どもの「困った行動」, 親の過干渉・ダブルバインドが原因かも!? Retrieved from [https://woman.excite.co.jp/article/child/rid\\_KodomoManabiLabo\\_57100/pid\\_5.html](https://woman.excite.co.jp/article/child/rid_KodomoManabiLabo_57100/pid_5.html) (2020年10月30日取得)
- 大橋 恵・井梅 由美子・藤後 悦子(2015). 地域スポーツにおける親子の喜びと傷つき:自由記述法による検討 東京未来大学研究紀要, 8, 27-37.
- おおたとしまさ(2019). 教育虐待—毒親と追いつめられる子どもたち 携書
- 佐々木 卓代(2009). 子どもの習い事を媒介とする父親の子育て参加と子どもの自己受容感——スイミングスクールを対象とした調査から—— 家族社会学研究, 21(1), 65-77.
- 末永 雅子(2013). 親が習い事に求めるもの——ピアノを習わせている親への調査に基づいて—— 広島文化学園大学学芸学部紀要, 3, 9-17.
- 田中 哲(2019). ずっと、わたしらしく生きていく 早期発達支援研究, 3, 144-148.
- 谷 芳恵・齊藤 誠一・宮竹 優(2019). 子どもの習い事と母親の育児不安および育児幸福感の関連——母親の就労状態に着目して—— 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 13(1), 31-36.
- 藤後 悦子・井梅 由美子・大橋 恵(2019). スポーツで生き生き子育て&親育ち 福村出版
- 藤後 悦子・井梅 由美子・大橋 恵(2021掲載予定). 絵本を通じた親教育の試み ——子どもの存在「Being」を重視する視点の獲得を目指して—— 早期発達支援研究, 4, 未定
- 藤後 悦子・大橋 恵・井梅 由美子(2017). スポーツ・ペアレンティング尺度及びスポーツ・ハラスメント尺度の作成 東京未来大学研究紀要, 10, 109-119.
- 藤後 悦子・大橋 恵・井梅 由美子(2020). ジュニア期のスポーツ選手の親が指導者とチームの親達に望むこと, 望まないこと 東京未来大学研究紀要, 14, 129 - 139.
- 藤後 悦子・YOSSAN(2020). けんちゃんとサッカーボール Retrieved from <https://togotokyo101.wixsite.com/mysite/blank-3> (2020年10月30日取得)
- 内田 利広(2018). 母と娘の心理臨床——家族の世代間伝達を超えて—— 金子書房

(本研究は、科研費18K03119の補助を受けた)

---

## Parents' values and parenting styles regarding children's extracurricular activities —Effects of a parenting picture book—

Etsuko TOGO (*Tokyo Future University*)

Yumiko IUME (*Tokyo Future University*)

Megumi M.OHASHI (*Tokyo Future University*)

Children's extracurricular activities have become popular in recent years, and children take part in extracurricular activities for pleasure. However, parents tend to demand better outcomes from these activities when children are older. The first purpose of this study was to clarify the values of parents and parenting styles related to children's extracurricular activities. The second purpose was to clarify the effect of a picture book used as parenting educational material for improving the idea "I should....." and controlling parenting. Mothers (N = 200) with children in grades 5 or 6 participated in this study. There were four categories of children's extracurricular activities: Individual sports, team sports, cultural activities, and learning. Mother's values and parenting styles were mainly accepting. However, mothers simultaneously tended to think, "should be patient" and "should excise as much as possible." After reading the parenting picture book, the controlling parenting style and the "I should~" values decreased, and the perspective of life-long education increased. The utility of this picture book as supporting material for parenting and parents' sex and working styles were discussed.

Key Words : Extracurricular activities, Parent-child relationship, A parenting picture book, Elementary school students

—2020.10.30 受稿, 2021.01.22 受理—